

第2学年 音楽科学習指導案

い組 男子 17 名 女子 17 名 計 34 名

指導者 内山 斉 哉

1 題材 うたってあそぼうⅡ

教材 「メッセージ」 杉本隆一 作詞・作曲

◎ 外国のあそびうた

「かくれんぼ」 林柳波 作詞 下総皖一 作曲（本時主教材）

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

これまでに子どもたちは、第1学年題材「うたってあそぼうⅠ」において、遊び歌で、伴奏に合わせて、拍の流れを意識して体を動かしながら歌う活動を通して、友達と一緒に遊びながら歌う楽しさを味わってきている。さらに子どもたちは、歌詞や曲想に合った表現を工夫し、みんなで一緒に歌いたいという欲求が高まってきている。

そこで、本題材では、呼びかけとこたえの仕組みに着目し、友達の歌声を聴きながら歌う活動や、強弱や速度に着目し、捉えた曲の特徴と自己のイメージを関連付けて歌い方を工夫したり、楽曲の楽しさを見いだしたりする活動を通して、ともに声を合わせて歌うことに関心をもち、体を動かしながら感じ取った曲想を基に、どのように歌うかについての思いをもち、自分なりに曲や演奏の楽しさを見いだすとともに、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付き、互いの歌声や伴奏の響きを聴いて声を合わせて歌う技能を高めることをねらいとして、本題材「うたってあそぼうⅡ」を設定した。

ここでの学習は、互いの歌声や伴奏を聴いて、自然で無理のない歌い方で声を合わせて歌う能力を育てる3年生題材「歌声合わせてⅠ」の学習へと発展していくこととなる。

(2) 指導の基本的な立場

互いの歌声や伴奏の響きを聴いて声を合わせて歌うためには、体の動きを伴った活動や、互いに聴き合う活動を工夫することが効果的である。特に、この期の子どもたちには、遊びの様子を想像しながら聴いたり、歌いながら遊んだりする活動を通して、友だちの歌声や伴奏の響きを聴きながら、自分の歌声を意識し、表現の楽しさを味わわせることが大切である。

そこで、本題材の展開に当たっては、曲想と音楽の構造との関わりを捉えながら、思いをもって歌ったり、楽曲の楽しさを見いだしたりさせるために、呼びかけとこたえ、強弱、速度に着目できるような課題設定を行う。

そのために、まず、「メッセージ」を取り上げる。この曲は、歌の部分と話し言葉の部分が呼びかけとこたえになっており、互いの歌声を聴き合いながら表現するのに適している。そこで、ここでは、歌の部分と話し言葉の部分に分かれて聴き合うことで、声を合わせて歌う楽しさを味わえるようにする。

次に、「外国のあそびうた」で「ロンドンばし」と「子犬のビンゴ」の2曲を取り上げる。これらの曲は、遊びの様子を思い浮かべながら聴いたり、諸外国の遊び歌に親しんだりするのに適している。そこで、ここでは、曲の感じを体の動きで表したり、伴奏をよく聴いて拍の流れを体全体で感じ取ったりして、友達と関わりながら遊び歌で遊ぶ楽しさを味わえるようにする。

最後に、「かくれんぼ」を取り上げる。この曲は、子どもがかくれんぼをして遊ぶときの会話が歌詞になっており、様子を想像しながら歌うのに適している。そこで、ここでは、呼びかけとこたえに着目し、歌詞が表す様子と強弱や速度を関連付けて、想像した様子に合わせて強弱や速さを工夫して表現する楽しさを味わえるようにする。

このような学習を通して、子どもたちは、音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取りながら、思いをもって表現したり、楽曲や演奏の楽しさを見いだしながら鑑賞したりして、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、楽しく音楽とかかわっていこうとする態度を養うことができる。

(3) 子どもの実態（調査対象 2年い組 男子17名 女子17名 計34名）

本学級の子どもたちの実態は次の通りであった。

① みんなで一緒に歌ったり，体を動かして歌ったりすることは好きですか。

はい (30) いいえ (4)

② その理由を教えてください。(複数回答)

【「はい」の理由】

- ・楽しいから。(15)
- ・体を動かすのが好きだから。(6)
- ・歌うのが好きだから。(5)
- ・ワクワクするから。(3)
- ・手遊び歌が好きだから。(3)
- ・気持ちがいいから。(2)
- ・友達と仲良くできるから。(2)
- ・面白いから。(2)
- ・歌うと笑顔になれるから。(2)
- ・心がぽかぽかするから。(1)

【「いいえ」の理由】

- ・はずかしいから。(2)
- ・苦手(1)
- ・体を動かすと歌えなくなるから(1)

③ みんなで一緒に歌うときに，どんなことに気を付けますか。(複数回答)

- ・みんなと声をそろえて歌う。(11)
- ・姿勢をよくする。(6)
- ・きれいな声で歌う。(4)
- ・リズムに気を付ける。(4)
- ・音程に気を付けて歌う(4)
- ・楽しい気持ちで歌う。(3)
- ・しっかり歌う。(3)
- ・曲に合う声の大きさを歌う。(2)
- ・歌詞を間違えないように歌う。(2)

④ 「ひらいた ひらいた」を様子にあった歌い方で歌いましょう。

- ・「ひらいた」より「つぼんだ」を小さく歌える。(17)
- ・「ひらいた」と「つぼんだ」に強弱の変化がつけられない。(17)

①②から，手遊び歌や体を動かして歌うことの楽しさを多くの子どもが感じている。その要因として，一緒に活動することの楽しさや面白さ，そのことから得られる心理的な満足感が多く挙げられた。一方「好きではない」と答えた子どもは，恥ずかしさや苦手な気持ち，歌えなくなることを理由として挙げている。これは，楽しく歌うためには，体を動かすだけでなく正しい音程や声の大きさを歌うといった技能面を重視していることが要因であると考えられる。

③から，歌を歌う際に，声を合わせることに，発声やリズム，音程や声の大きさに着目している子どもが多いが，歌詞に着目している子どもは少ない。これは，正しい旋律やリズム，声の大きさに気を付けて歌うことが目指す表現になっており，歌詞が表す様子やそこから得られるイメージと歌い方を関連付けて考えることができていないことが要因であると考えられる。

④から，半数の子どもが歌詞の意味に合う発声や音量に気を付けて，歌うことができていたが，残りの半数は，すべて同じように歌う子どももいた。これは，歌詞の意味を理解できていなかったり，正しい旋律で歌うことに一生懸命で，発声や音量に変化をつけられなかったりすることが要因であると考えられる。

(4) 指導上の留意点

ア 課題把握・課題追求Ⅰの過程では，互いの歌声を聴き合いながら，歌う楽しさを味わえるようにする。そのために，「呼びかけとこたえ」になっている歌の部分と話し言葉の部分に焦点化し，それぞれのパートに分かれてお互いの歌声を聴き合い，拍に合わせて歌う活動を設定する。

イ 課題追求Ⅱの過程では，拍の流れにのってみんなで声を合わせて歌う楽しさを味わえるようにする。そのために，グループやペアで歌の部分と話し言葉の部分に分かれて歌ったり，あいさつの部分を動作化したりしてみんなで歌う活動を設定する。

ウ 課題追求Ⅲ・まとめの過程では，強弱を変化させることで，歌詞が表す様子をみんなの歌声で表現する楽しさを味わえるようにする。そのために，歌詞が表すかくれんぼの様子を十分に想像できるように，鬼役と隠れる役の様子や気持ちと関連付けて強弱や速度を変化させた表現を考える活動を設定する。その際，みんなで声を合わせてかくれんぼの様子を表現できたことを教師が具体的に価値付け，表現のよさを全体で共有できるようにする。そして，みんなで声を合わせて表現した音楽によって，より楽しく音楽表現ができるようになったことを味わわせるようにする。そのために，学習前と学習後のイメージや気持ちがどのように変化したのか，背景となる音楽活動をもとに振り返らせる活動を設定する。

3 目 標

- (1) ・ 曲想やその変化と音楽の構造との関わり合いに気付くことができる。
 ・ 友達の声や伴奏を聴きながら、友達と一緒に声を合わせて歌うことができる。
- (2) 音楽を「呼びかけとこたえ」「速度」「強弱」といった視点で捉え、様子や気持ちに合った歌い方を工夫し、自分なりに音楽の楽しさを見いだすことができる。
- (3) 互いの歌声や伴奏の響きに関心を持ち、拍を意識した表現になっているかを振り返りながら、進んで活動に取り組むことができる。

4 指導計画(全6時間)

過程	思いを連続・発展させる心の高まり	教材	主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
課題把握	お話をしている感じで歌ってみたいな。	「メッセージ」 ①②	ともだちのこえをよくきいてうたおう。 ○ 範唱を聴いて、感じたことや気付いたことを話し合う。 ○ 歌の部分と話し言葉の部分に分かれ、声を合わせて歌う。	○ 歌の部分と合いの手部分が呼びかけとこたえになっていることに気付かせるために、拡大楽譜上に色をつけて捉えやすくする。 ○ 互いの声を意識させるために、グループやペアで歌の部分と話し言葉に分かれて歌わせる。 ○ 外国の遊び歌に親しみをもてるようにするために、「ロンドン橋」と「小犬のビンゴ」の遊び歌の様子を映像で鑑賞させる。 ○ 表したい小犬の様子に合わせて表現するために、「どんな小犬に変身したいかな。」と問い、「速さ」を変化させて伴奏する。 ○ かくれんぼをするときの言葉が歌詞になっていたり、おに役と隠れる役のやりとりが「呼びかけとこたえ」になっていたりすることに着目させるために、「どんなひみつがかくれているのかな。」と問い、感じたことや気付いたことを板書する。 ○ 見いだした楽曲のよさや面白さから音楽表現への思いをもたせるために、「どんなかくれんぼを表現したいかな」と問う。 ○ 表したい音楽表現を追求させるために、強弱の変化によってイメージがどのように変化するのか、大きさの異なる強弱を表すカードで音の大きさを視覚的に捉えやすくする。 ○ 課題追求を通して、より楽しく音楽表現ができるようになったことを味わわせるために、みんなで表現した音楽によって、どんな気持ちに変化したのか、学習前に感じていた気持ちを板書で示し、比較させる。 ○ 次時以降も楽しく音楽活動に取り組めるようにするために、「より楽しくなったのは、どんな学習をしてきたからなのか。」と問い、気持ちの変化の背景にある音楽活動を想起させながら自分と音楽との関わり方を振り返らせる。
課題追求Ⅰ	交互に歌うと楽しくなるね。		おながくにあわせて いろいろなくにのあそびうたであそぼう。 ○ 「ロンドンばし」、「小犬のビンゴ」を鑑賞し、感じたことや気付いたことを話し合う。	
課題追求Ⅱ	手拍子しながらみんなで合わせて歌ってみたいな。	外国のあそび歌 ③④	いろいろな小犬のようすにへんしんさせよう。 ○ 速度の変化によって小犬のようすがどのように変化するか、話し合う。 ○ 表したい小犬の様子に合うように強弱や速度に変化を付けた表現を試行する。	
	「速さ」のまほうをかけると、もっと楽しくなりそうだね。		このうたには、どんなひみつがかくれているかな。 ○ 範唱を聴いたり歌詞を読んだりして、感じたことや気付いたことを話し合う。 ○ 見いだした楽曲のよさや面白さを基に、音楽表現への思いをもつ。	
課題追求Ⅲ	かくれんぼの時の言葉が歌詞になっていて面白いな。	かくれんぼ ⑤⑥(本時)	かくれんぼのイメージを表すために、リズムや「呼びかけとこたえ」というしくみがかくされていた。	
	楽しいかくれんぼをしている感じになるように歌ってみたいな。		いろいろな「かくれんぼ」のようすがあらわれるようにうたおう。(本時) ○ おに役と隠れる役に分かれて、強弱、速度に変化をつけた歌い方を試行する。 ○ 相互発表・鑑賞し、学習のまとめをする。	
	いろいろなかくれんぼの様子に合うように歌ってみたいな。			
	音楽のまほうをかけて、みんなで声を合わせて歌うと前よりももっと楽しく歌うことができたよ。		・ 音楽の魔法をかけて歌うと、もっと楽しく歌えるようになったよ。 ・ みんなで声を合わせて楽しく歌うことができたよ。 ・ もっといろいろな曲に音楽の魔法をかけて歌いたいな。	
まとめ				

5 本 時 (6 / 6)

(1) 目 標

歌詞が表す様子や歌声を合わせることに関心をもち、呼びかけとこたえ、強弱といった視点で音楽を捉え、「もういいかい」「まだだよ。」の声の大きさを比較しながら、様子に合った歌い方を工夫し、友達の声聴いて声を合わせて歌うことができる。

(2) 本時の展開に当たって

本時では、かくれんぼの様子を表現するために、呼びかけとこたえの部分に着目し、強弱の変化による働きを感じながら、おに役と隠れる役の動きと強弱とを関連付けて音楽を捉えることができるようにする。その際、1回目の「まだだよ」と2回目の「まだだよ」のように比較対象を明確にし、実際に歌いながら声の大きさを聴き比べる活動を取り入れる。さらに、学習を通して音楽や自分の気持ちがどのように変化したのかを、その背景にある音楽活動をもとに振り返らせることで、楽しく音楽とかかわったことを実感できるようにする。

(3) 実 際

過 程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
課題把握	1 「かくれんぼ」を歌い、曲の特徴や表したい音楽表現を想起する。 かくれんぼの様子を表す歌だったね。みんなでかくれんぼの様子を歌で表したいな。 2 「もういいかい」「まだだよ」のやりとりを試しに歌い、話し合う。 強弱などに気を付けているいろいろなかくれんぼの様子を歌で表してみたいな。 3 本時の学習について話し合う。 いろいろな「かくれんぼ」のようすがあらわれるようにうたおう。	(分) ↑ 12	○ 思いをもって楽しく音楽活動に取り組ませるために、「かくれんぼ」には、どんなひみつが隠れていたかな。」と問い、前時に感じたり気付いたりした楽曲の楽しさや、表したい音楽表現を想起させる。 ○ 「もういいかい」「まだだよ」の部分に焦点化するために、実際にかくれんぼをさせながら歌わせ、「かくれんぼをしている様子がより表れているのは、どの部分かな。」と問う。 ○ 強弱などの要素を視点に表現を工夫していく課題を設定するために、試しに「もういいかい」「まだだよ」の部分、かくれんぼをしながら歌わせ、遠くに隠れた様子を取り上げて「遠くに隠れる様子を表すには、どのように歌えばよいかな。」と発問する。その後、いろいろなかくれんぼの様子を全体で共有する場を設定する。
課題追求	4 みんなで声を合わせて歌い、表したい音楽表現を追求する。 おに役 比較の視点:「強弱」 隠れる役 「もういいかい」 「まだだよ」(1回目) 「もういいかい」 「まだだよ」(2回目) 「もういいかい」 「もういいよ」 比較 比較 比較 遠くに行く さらに遠くに行く 強弱の変化を工夫して歌うと、おに役と隠れる役の様子が表せる。	× 28	○ おに役と隠れる役の動きを捉えさせるために、隠れる役が遠くに離れていく様子を視覚的に捉えやすくする。その際、実際に声も出させて、声の変化にも着目させる。 ○ 強弱の比較対象を明確にするために、「小さく歌う」と考えた子どもに「どこと比べて小さく歌うのかな」と発問する。 ○ 強弱の働きに着目させ、表したい音楽表現を追求させるために、大きさや色の異なるアイコンカードと歌詞を対応させて示し、比較対象や強弱の変化を視覚的に捉えさせながら活動する場を設定する。 ○ 追求した音楽表現によって自分が感じ取った曲のイメージが変化したことを実感させるために、最初に感じた曲のイメージと学習した後の曲のイメージを、板書や相互発表の際の音楽をもとに比較させ、振り返らせる活動を設定する。その際、友達の表現のよかった点で鑑賞させ、多様な価値観に気付けるようにしていく。
表現の工夫	5 相互発表・鑑賞をする。 6 みんなで声を合わせて歌い、学習のまとめをする。 ・ 声の大きさ(強弱)を変化させて歌うと、かくれんぼ(おに役と隠れる役)の様子がより表せたよ。 ・ 他にもたくさんの音楽のまほうを使ってみんなで歌いたいな。	× 5	○ 今後の学習でも表したい音楽表現の到達に向けて活動できるようにするために、気持ちが変化した背景となった活動も一緒に振り返らせ、音楽に楽しくかかわっていくことの楽しさを実感させる。
相互発表・鑑賞			
まとめ			

